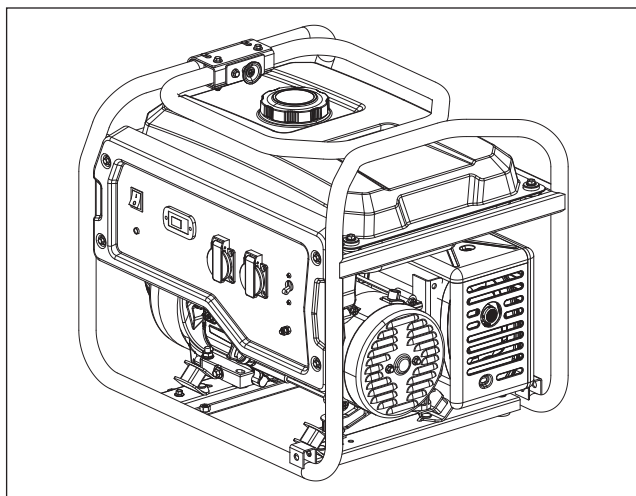




発電機

MGE2700

取扱説明書



ご使用の前に、必ず取扱説明書、本体ラベルをお読みになり、安全に注意してお使いください。

はじめに

アースパワー発電機をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書には、本機の正しい取り扱い方法と簡単な点検・整備について説明してあります。

万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。
安全な運転、および本機の性能を十分に発揮させるために、ご使用前には必ず本書をよくお読みいただき、ご使用時には携帯していただきますようお願い申し上げます。

本取扱説明書では正しい取り扱いおよび点検・整備に関する必要な事項を次のシンボルマークで表示してあります。

⚠ 危険

指示に従わないと死亡または重大な傷害に至るもの。

⚠ 警告

指示に従わないと死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの。

⚠ 注意

指示に従わないと傷害を負う可能性、物的損害が発生する可能性があるもの。

要 点

正しい操作方法や点検整備上のポイントを示し、取り扱いを誤ると、本機やその他のものが損傷する可能性がある場合。

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合があります。
- 保証書はよくお読みいただきお買い上げ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、不明な点や不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡等をされる場合は必ず本書を添付してください。

目次

安全にお使いいただくために	P 1
主要諸元	P 3
重要ラベル	P 4
各部の名称	P 6
各部の取り扱い	P 8
始業点検	P13
正しい運転操作	P17
やさしい点検・整備	P22
定期点検と長期保管	P26
定期運転と定期交換	P27
故障診断	P28
配線図	P29

安全にお使いいただくために－ 1

- 運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および本機に貼付されているラベル全てをよく読み正しくご使用ください。本機の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

▲ 警告

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、換気の悪い場所で使用しないでください。
排気ガス中には有害成分が含まれていますので室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所、建物や遮へい物で風通しの悪い場所で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- やけどのおそれあり、使用中、使用直後はマフラ部が熱くなっています。マフラやマフラ周辺のプロテクタには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や本機の故障、または火災や人身事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で本機を操作しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。
- 本機を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに渡してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、排気口を建物や設備から1メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。燃料は、引火しやすく爆発性がありますので、取り扱いには十分注意を払ってください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、燃料はこぼさないように注意してください。こぼれた燃料はきれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹼と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

安全にお使いいただくために－ 2

▲ 注意

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、本機の回転部に棒や針金を入れないでください。
- けがのおそれあり、飲酒や薬物を服用したり、又過労の際には使用しないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグ、プラグキャップや高圧コードに触らないでください。
- 感電、故障のおそれあり、雨や雪の中などの水のかかる場所、海水や潮風の当たる場所では使用・保管をしないでください。又、水洗いもしないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 感電のおそれあり、貴金属を身につけて使用しないでください。
- 火災のおそれあり、本機の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 本機を自動車などで運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行なう始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店もしくはサービス店の点検を受けてください。
- 発電機の使用に際しては、各種法律や規制が有ります。労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などを遵守してください。
- この取扱説明書で示す重要な安全指示事項は、起こりうる全ての状況や状態を表しているものではありません。発電機の安全性には充分気を配っておりますが、運転する方や保守をする方も安全には充分な注意、配慮をお願いします。

将来、本機を廃棄される場合および廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げの販売店もしくはサービス店にご相談ください。

主要諸元

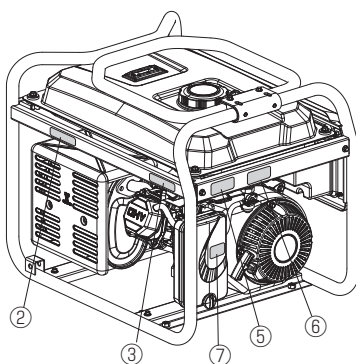
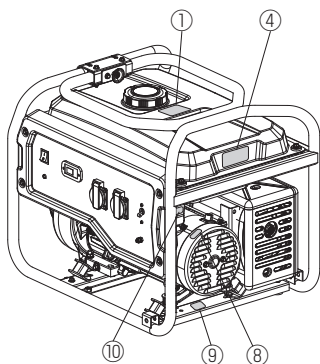
項目		名称	MGE2700-A01 (50Hz) / MGE2700-B01 (60Hz)	MGE2700-AE1 (50Hz) / MGE2700-BE1 (60Hz)
発電機	型式	2 極回転界磁形単相交流発電機		
	電圧調整方式	AVR 式		
	定格周波数 (Hz)	50/60		
	定格電圧 (V)	100		
	定格出力 (kVA)	2.3/2.7		
	定格電流 (A)	23/27		
	力率	1		
	乾燥重量	46	50	
全長×全幅×全高 (mm)		590 × 445 × 490		
装備	交流コンセント	20A × 2個、27A × 1個		
	交流過電保護装置	交流プロテクタ		
タック	燃種	自動車用無鉛ガソリン (JIS K 2202-2 号相当)		
	燃料タンク容積 (L)	15		
	燃料タンク仕様上限 (L)	10		
	燃料レベルゲージ	浮き子式		
	燃料ストレーナー	カップ型/入口設置		
エンジン	型式	空冷 4 サイクル OHV ガソリンエンジン		
	排気量 (cm ³)	212		
	潤滑油種	自動車エンジンオイル SE クラス以上		
	潤滑油量 (L)	0.6		
	点火方式	T.C.I		
	点火プラグ	抵抗入 /LG F7RTC		
	始動方式	リコイルスタータ	リコイルスタータ/セルスタータ	
	オイルセンサ	浮き子式		

重要ラベル- 1

発電機を安全に使用していただくために、本体に貼付されているラベルを良く読み正しくご使用ください。

要点

ラベルは良く見えるように、常に手入れを行い、汚れたりはがれたりした場合には販売店にご相談の上新品と交換してください。



警告

注意

ラベル

①


	警告 感電や火災のおそれがあるので電力会社からの電気配線には絶対に接続しないこと。		警告 火災のおそれがあるので ・エンジン運転中や、エンジンが熱い間は絶対に給油しないでください。 ・ガソリン・オイル取扱時は、火気厳禁のこと。 ・可燃物のそばで使用しないこと。
	感電のおそれがあるので ・雨中使用禁止。 ・ぬれた手でさわらないこと。		注意
	排気ガスによる中毒のおそれがあるので ・換気の悪い所で使用しないこと。 ・人・建物・設備に排気を向けないこと。		事故防止のため、使用前に取扱説明書を読み、安全に注意して正しく取扱うこと。

重要ラベル- 2

②

▲ 警告	▲ 警告
 <p>火災のおそれがあるので排気口を建物や設備から1m以上はなすこと。</p>	 <p>高温注意 やけどのおそれがあるので、排気口にふれないこと。</p>




③

▲ 注意	▲ 注意
 <p>高電圧注意 感電のおそれがあるので、運転中はスパークプラグにさわらないこと。</p>	<p>スパークプラグは必ず指定のものを使用してください。 指定プラグ:F7RTC(LG)</p>

その他のラベル




④ MGE2700-A01/AE1

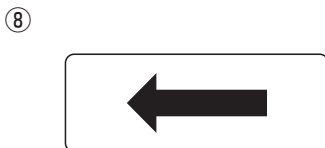
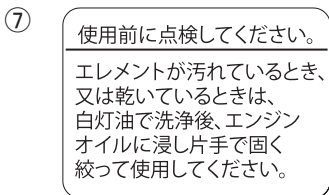
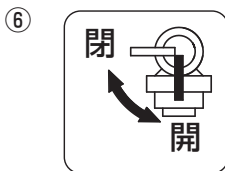
発電機名称

		
◇ CQC DUCAR	輸入元：株式会社 Willbe	
交流 -相 単相	-定格出力 2.3kVA	
-定格電圧 100V	-定格出力周波数 50Hz	
-定格電流 23A	-燃料の種類 ガソリン	

MGE2700-B01/BE1

発電機名称

		
◇ CQC DUCAR	輸入元：株式会社 Willbe	
交流 -相 単相	-定格出力 2.7kVA	
-定格電圧 100V	-定格出力周波数 60Hz	
-定格電流 27A	-燃料の種類 ガソリン	



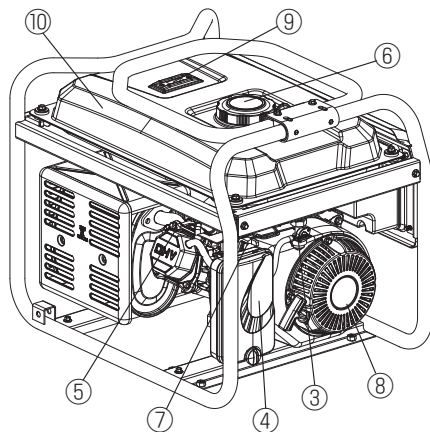
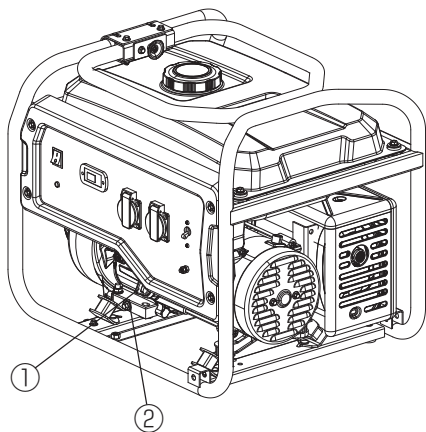
⑨ アース



⑩ 形式、製造番号

MGE 2700
SER. NO.

各部の名称- 1

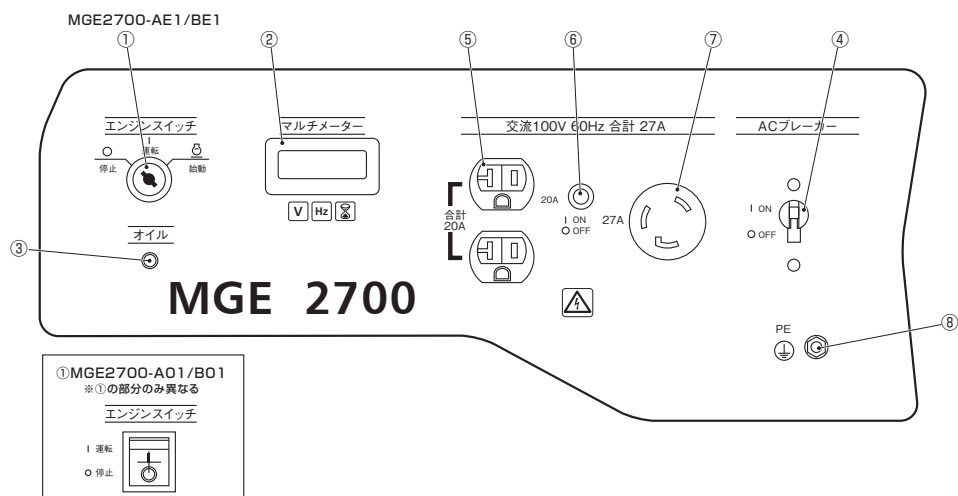


- ① オイルゲージ
- ② オイルドレンプラグ
- ③ 燃料コック
- ④ エアクリーナ
- ⑤ スパークプラグ

- ⑥ タンクキャップ
- ⑦ チョークレバー
- ⑧ リコイルスタータ
- ⑨ 燃料計
- ⑩ 燃料タンク

各部の名称- 2

● コントロールパネル

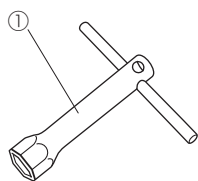


- ① エンジンスイッチ
- ② マルチメーター
- ③ オイルセンサーランプ
- ④ AC ブレーカー

- ⑤ 交流コンセント
- ⑥ 交流プロテクタ
- ⑦ 交流コンセント
- ⑧ アース端子

● 付属品

梱包箱に同梱の以下の付属品を確認してください。



① スパークプラグレンチ



② 取扱説明書 (本書)



③ エンジンスイッチキー
(MGE2700-AE1/BE1
のみ)

各部の取り扱い- 1

●エンジンスイッチ

点火系統を制御しエンジンの運転（始動）、停止を行います。

付属のエンジンスイッチキーを差し込み、エンジンの運転（始動）、停止を行います。

停止：エンジンの停止および保管時の位置です。

運転：エンジンの運転時の位置です。

始動：セルモータが回転し、エンジンが始動します。

▲ 注意

- セルモータを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリー上がりの原因となります。
- 発電機を使用しないときは、エンジンスイッチを停止の位置にして、キーを抜いてください。

要点

始動の位置でエンジンがかかったら、エンジンスイッチから手を放してください。キーは自動的に運転の位置に戻ります。

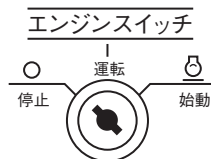
●オイルセンサーランプ

エンジンオイル量の不足を警告するランプです。運転中にエンジンオイル量が規定以下になるとオイルセンサーランプが点灯し自動的にエンジンが停止します。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下の場合、リコイルスタータグリップを引いてもセンサーランプが点灯し、エンジンは始動しません。

要点

- 本機が傾斜しているとオイルセンサーが働き、エンジンが停止することがあります。水平な設置場所を選んで運転してください。

MGE2700-AE1/BE1



MGE2700-A01/B01



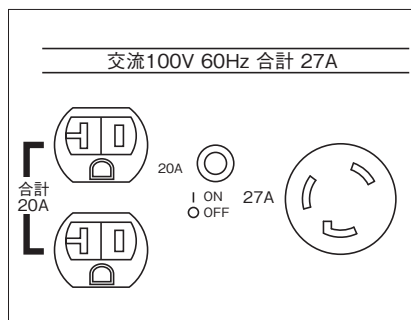
オイル



各部の取り扱い- 2

●交流コンセント

交流電気を取出すコンセントです。
20A コンセント 2 個と定格出力が一度に
取出せる 27A コンセントを備えています。



●交流プロテクタ

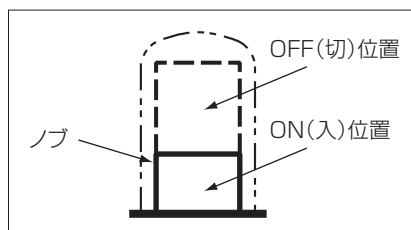
使用範囲を越えて使用した場合、回路を
しゃ断して発電機を保護する役目をし
ます。

ON (入) : 電気が取出せる。

OFF (切) : 回路がしゃ断されて電気が取出
せない。

⚠ 注意

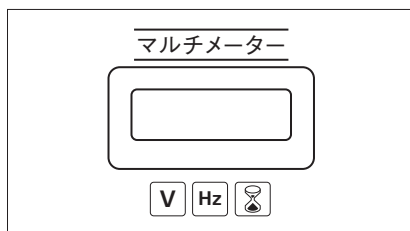
- 発電機の使用中にプロテクターが OFF (切) の位置になった時は以下の項目を確認し、不具合の部分を解消後再びノブを押して ON (入) の位置にしてください。
- 使用器具に異常が無いか点検をしてください。
- 電気を取出し過ぎていないか確認をしてください。



各部の取り扱い- 3

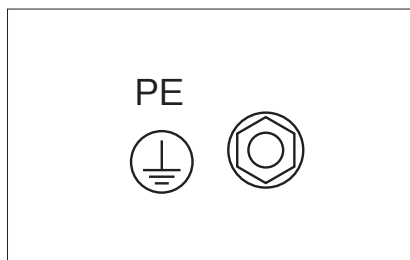
●マルチメーター

発電機の運転時間を積算表示します。
電気器具の使用にかかわらず、エンジンの
運転時にカウントされます。エンジンの整
備、管理等に有効です。



●アース端子

感電防止のため大地にアースをする端子で
す。
使用器具をアースした場合は、本機も必ず
アースしてください。



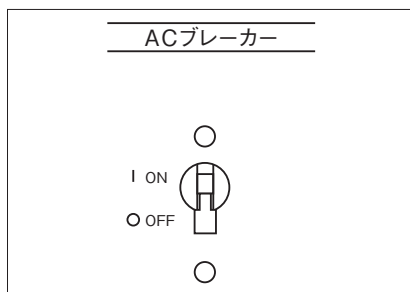
各部の取り扱い- 4

● ACブレーカー

使用範囲を超えて使用したり、使用器具に異常があった場合、回路をしゃ断して発電機を保護する役目をします。

ON 電気が取出せる

OFF 回路がしゃ断されて電気が取出せない



⚠ 注意

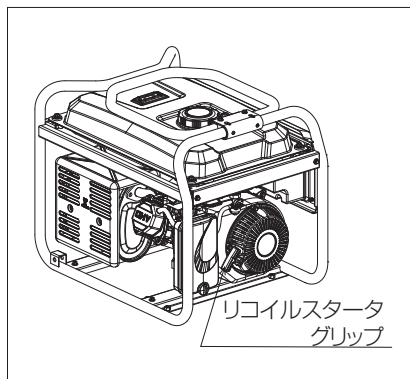
発電機の使用中に AC ブレーカーが「OFF」の位置になった時は以下の項目を確認し、不具合の部分を解消後再びブレーカーを「ON」の位置にしてください。

- 使用器具に異常がないかを点検してください。
- 電気を取出し過ぎていないか確認をしてください。

各部の取り扱い- 5

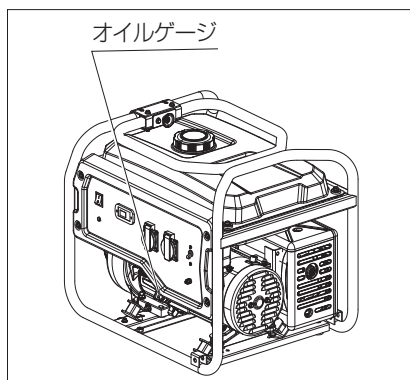
●リコイルスタータグリップ

エンジンを始動させるときに使用します。



●オイルゲージ

エンジンオイル量を点検、補給、交換するときに取外します。



始業点検- 1

▲ 注意

- 始業点検を怠ると、事故の原因となり、発電機に重大な損傷をあたえます。
- 安全の為、常に発電機を良好な状態に保守してください。
- 点検は、平坦な場所で発電機本体を水平にし、エンジンを停止して行ってください。

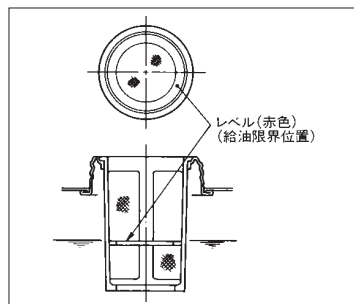
● 燃料の点検、補給

燃料タンクキャップを外して、燃料の残量を点検します。少ない場合は給油限界位置（赤レベル）を超えないよう補給してください。

燃料タンク容量(赤レベルまで)

MGE2700：10L

使用燃料：無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）



要 点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は空になる前に、できるだけ早目に補給してください。

▲ 警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発性があります。次の事項を必ずお守りください。

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。
- 給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように補給してください。こぼれたときは、ただちに布などで完全にふき取ってください。
- 燃料タンクキャップは確実に締付けてください。

▲ 注意

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水、雪等の水分及び塵埃、異物等が入らないように注意してください。また燃料ストレーナーを取外して給油しないでください。
- 燃料は規定量以上（ストレーナーの赤レベル以上）給油しないでください。

始業点検- 2

●エンジンオイルの点検、補給

オイルゲージを外してエンジンオイルがオイルゲージの上限（基準面）まであるか点検します。

少ない場合は、新しいオイルを基準面まで補給してください。

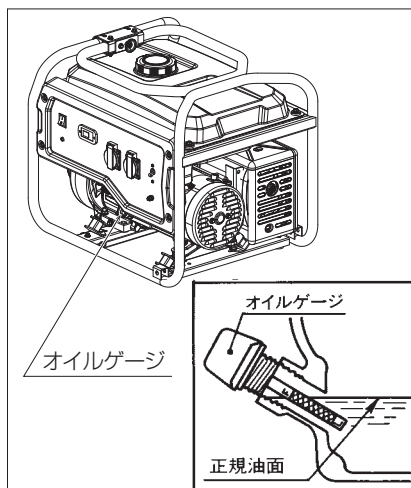
オイル量：

MGE2700：0.6L

推奨オイル：エンジンオイル

API分類 SE 級以上

SAE10W-30



▲ 注意

- エンジンを始動する前に、エンジンオイルの点検を必ず行ってください。

要点

- オイルゲージは確実に締付けてください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
- 寒冷時はAPI分類SE級以上のSAE5W又は5W-30オイルをご使用ください。

SAEオイル粘度表

シングルグレード	5W	10W	20W	#20	#30	#40	
マルチグレード	5W-30	10W-30					
外気温度	-20	-10	0	10	20	30	40℃

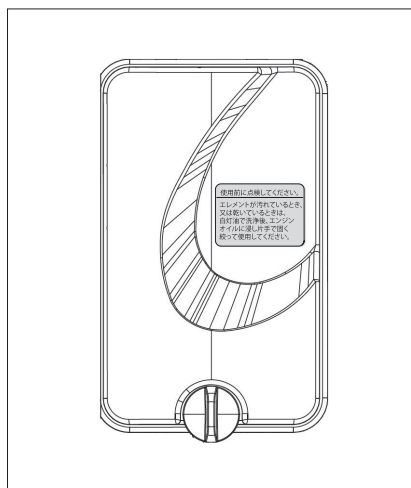
始業点検- 3

●エアクリーナの点検

エアクリーナカバーを取外し、エレメントの汚れを点検します。汚れのひどい場合はエレメントの清掃をしてください。(清掃方法はやさしい点検、整備を参照)

要 点

- エレメントやエアクリーナカバーの取付けが不完全であったり、エレメントが取付けられていないと、エンジンの性能や耐久性に重大な悪影響をあたえます。
- カバーやエレメントは確実に取付けてください。

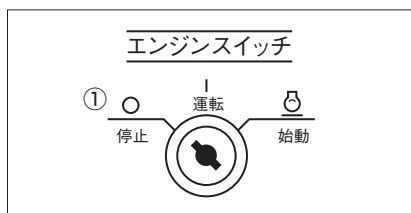


●バッテリーの取り付け MGE2700-AE1/BE1

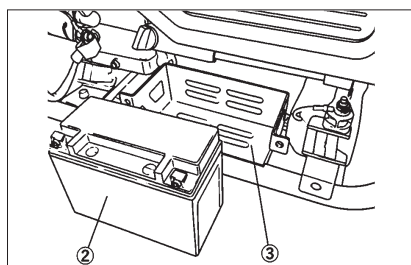
警告

指定以外のバッテリーは使用しないでください。
指定バッテリー：KY511019

1. エンジンスイッチを停止①の位置にしてエンジンを停止します。

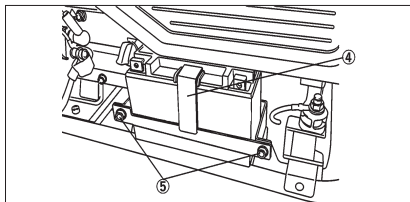


2. バッテリー②をバッテリートレイ③の上に置きます。

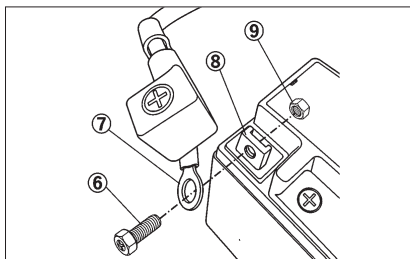


始業点検- 4

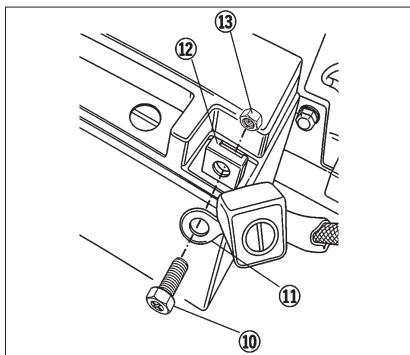
3. ステー④を取り付けてボルト⑤を締め付けます。



4. ⊕プラスリード線⑦（赤色）をバッテリーのプラス端子⑧にボルト⑥、ナット⑨で取り付けます。



5. ⊖マイナスリード線⑪（黒色）をバッテリーの⊖マイナス端子⑫にボルト⑩、ナット⑬で取り付けます。



要点

⊕プラスリード線（赤色）を先にバッテリーのプラス端子に取り付け、次に⊖マイナスリード線（黒色）をバッテリーのマイナス端子に取り付けます。端子の位置を逆にしないでください。

●その他の点検

各種取扱操作部の作動状態およびエンジンの調子を点検してください。

- エンジンスイッチの作動具合。
- リコイルスタータの作動具合およびスタータロープの損傷。
- エンジンの始動性および異音、排気色の状態。
- 交流コンセントの損傷。

●発電機周辺の点検

安全に御使用いただくため、発電機周辺の点検をしてください。

- 周囲に火の気や可燃物および危険部がありませんか。
- 建物および他の設置物から1 m以上離れていますか。
- 排気口は風通しの良い、広い場所に向けてあり換気は十分ですか。
- 設置場所は平坦で発電機が傾斜していませんか。

正しい運転操作- 1

●エンジンの始動 MGE2700-A01/B01

▲ 注意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料とオイルの量を点検します。
2. エンジンスイッチを「ON」の位置にします。燃料コックを開にします。チョークレバーを閉にします。エンジンが暖まっているときは開の位置にします。
3. リコイルスタータグリップを軽く引き出します。
リコイルスタータグリップが重くなった状態から勢いよく引きエンジンを始動させます。

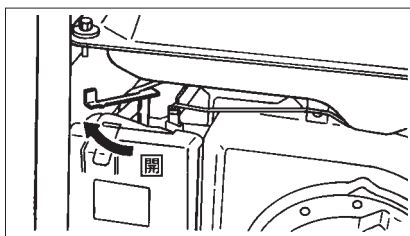
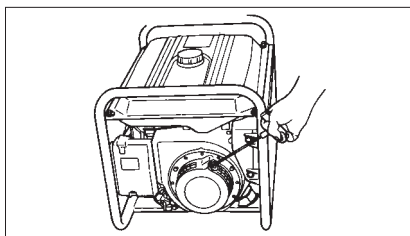
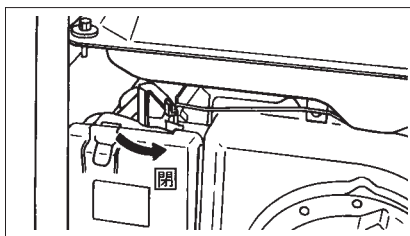
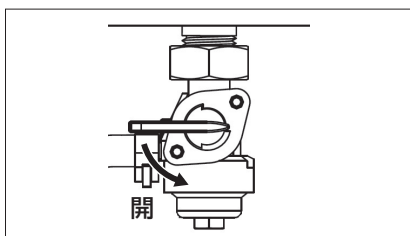
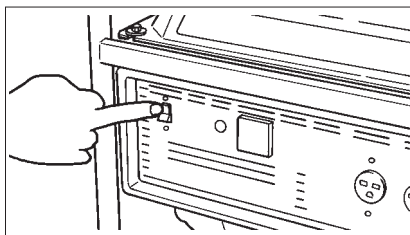
▲ 注意

- リコイルスタータグリップを戻す時はゆっくりと戻してください。

要点

リコイルスタータグリップを数回引いてエンジンが始動しない時は、エンジンスイッチを運転の位置にしてリコイルスタータグリップを引いてください。

4. エンジン回転数が安定したらチョークレバーを開の位置にします。
5. しばらくの間暖機運転をします。



正しい運転操作- 2

●エンジンの始動 MGE2700-AE1/BE1

▲ 注意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料とオイルの量を点検します。
2. エンジンスイッチを「運転」の位置にします。燃料コックを開にします。チョークレバーを閉にします。エンジンが暖まっているときは開の位置にします。
3. エンジンスイッチを「始動」の位置にしてエンジンを始動させます。

▲ 注意

- セルモータを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリー上がりの原因となります。
- 発電機を使用しないときは、エンジンスイッチを停止の位置にして、キーを抜いてください。

要点

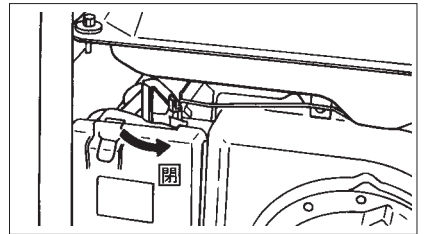
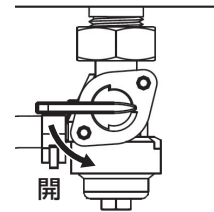
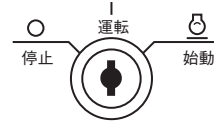
始動の位置でエンジンがかかったら、エンジンスイッチから手を放してください。キーは自動的に運転の位置に戻ります。

4. エンジン回転数が安定したらチョークレバーを開の位置にします。
5. しばらくの間暖機運転をします。

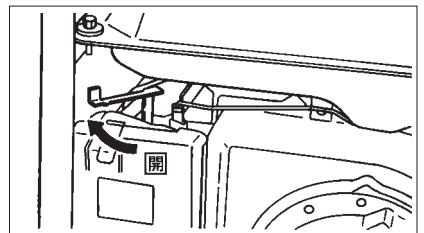
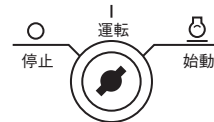
要点

リコイルでエンジンを始動する場合は、「正しい運転操作-1」を参照してください。

エンジンスイッチ



エンジンスイッチ

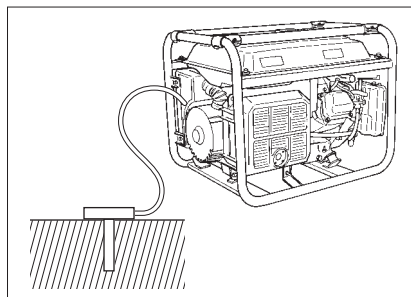


正しい運転操作- 3

●交流電気の取出し方

⚠ 警告

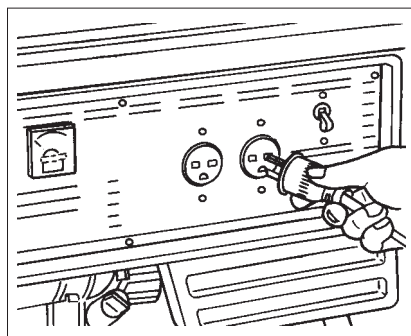
電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災あるいは人身事故、または本機や電気器具が故障する原因となります。



1. アース端子を接続します。

⚠ 注意

感電および発電機の損傷を防止する為、発電機のアース端子より必ず地面にアースをしてください。



2. エンジンを始動させます。
3. パイロットランプが点灯していることを確認します。
4. 電気器具のプラグを交流コンセントに差し込みます。

要点

電気器具のスイッチが OFF (切) になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

⚠ 注意



- プラグは接触不良、抜け、ゆるみがないよう確実にコンセントへ差し込んでください。
- プラグは図のようなアース付 3 本足プラグを使用してください。

5. 電気器具のスイッチを入れます。

正しい運転操作－4

●交流、直流電気の使用可能範囲

交流、直流電気の使用は次の電気器具の使用可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上ご使用ください。

使用器具	機種	使用可能範囲		摘要	
		50Hz	60Hz		
交流 (AC)	照明・電熱器・テレビ・ラジオなど 	MGE2700	2300W まで	2700W まで	<ul style="list-style-type: none"> 使用可能範囲以下でも起動電流の多い製品やモーターの種類によっては使用出来ない場合があります。 使用可能範囲を越えた電流を使用した場合又は使用器具に異常があった場合はサーキットブレーカーがOFFになります。
	单相モーター類 	MGE2700	800W まで	900W まで	

⚠ 注意

- 電気器具の合計負荷が発電機の使用可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。
- 電動工具・汎用モーター類の一部には使用可能範囲内であっても起動電流が大きい場合、または電気器具の状態により使用できないことがあります。

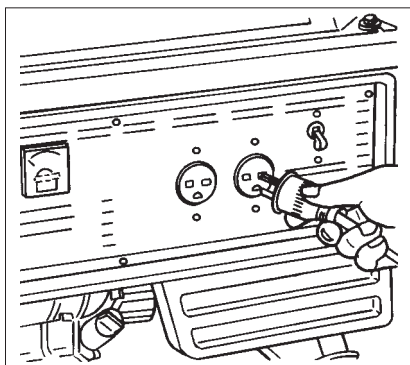
要点

使用可能範囲を超えた場合、また電気器具に異常があった場合は、交流プロテクタが OFF（切）になります。

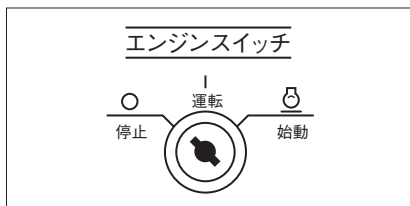
正しい運転操作- 5

●エンジンの停止

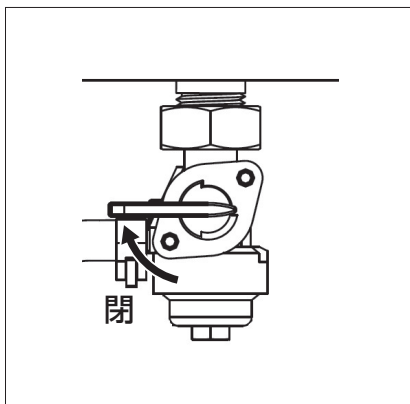
1. 電気器具のスイッチを OFF (切) にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。



3. エンジンスイッチを停止の位置にします。



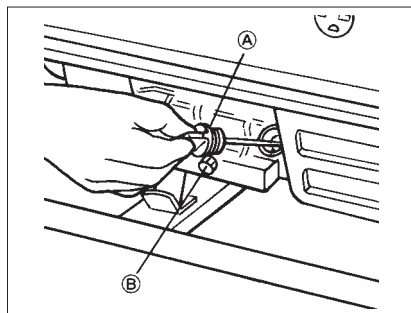
4. 燃料コックを閉 (止) にします。



やさしい点検・整備- 1

●エンジンオイルの交換

1. エンジンを始動し2～3分間暖機運転をします。
2. エンジンを停止します。
3. オイルゲージ①を外します。
4. ドレンボルト②を外してオイルを抜き取ってください。
5. ドレンボルト②をしっかり締めてください。



要点

初回は20時間目、その後は100時間毎に交換してください。

6. 新しいオイルをオイルレベルゲージの上限（基準面）まで給油します。

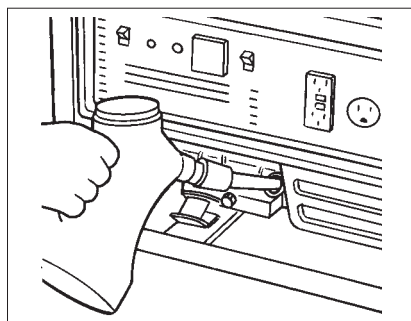
オイル量

MGE2700 : 0.6 L

使用オイル : エンジンオイル

API 分類 SE 級以上

SAE 10W-30



要点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

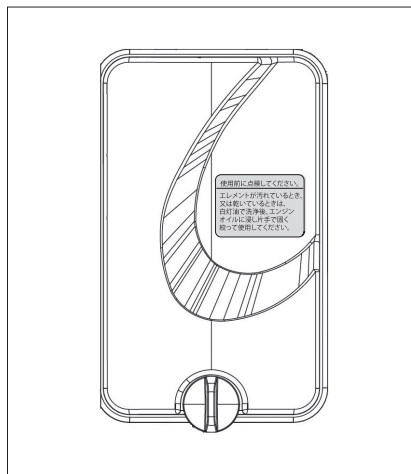
7. オイルゲージを締め付けます。

やさしい点検・整備- 2

●エアクリーナエレメントの清掃

エアクリーナが汚れていたり、エレメントが目詰りすると出力不足や燃料消費が多くなりますので定期的に清掃してください。

1. エアクリーナカバーを外しエレメントを取出します。
2. エレメントを洗い油でよく洗浄し乾燥後きれいなエンジンオイルに浸し、固く絞ります。



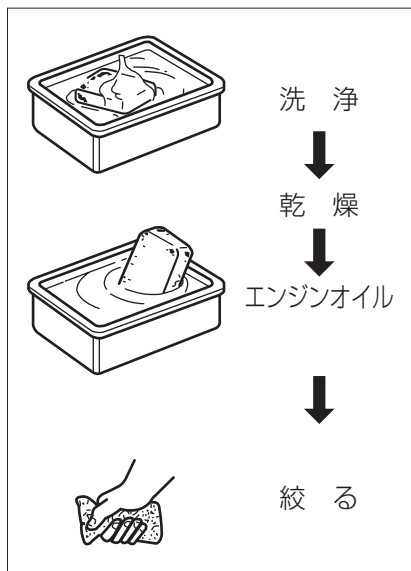
⚠ 警告

- 洗い油は引火しやすいので、火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- 洗浄は換気の良い場所で行ってください。

3. エレメントをケースに納め、エアクリーナカバーを組付けます。

要点

- エレメントやエアクリーナカバーの取付けが不完全であったり、エレメントが取付けられていないと、エンジンの性能や耐久性に重大な悪影響をあたえます。カバーやエレメントは確実に取付けてください。
- 50時間運転毎に定期清掃してください。ほこりのひどい場所で使用した場合は、定期時期より早めに清掃してください。



やさしい点検・整備- 3

●スパークプラグの点検と清掃

スパークプラグの電極が汚れていたり、摩耗するとエンジン不調の原因となります。定期的に点検、清掃してください。

▲ 注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラー、スパークプラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないようエンジンが冷えてから点検してください。

1. スパークプラグキャップを外します。
2. 付属のスパークプラグレンチを使用し、スパークプラグを外します。
3. スパークプラグの焼け具合を点検します。通常はキツネ色に焼けますが黒くくすぶっていたり白く焼けていた時はエアクリーナを点検してください。
4. 電極付近の汚れ(カーボン)を落します。
5. 電極隙間を点検します。

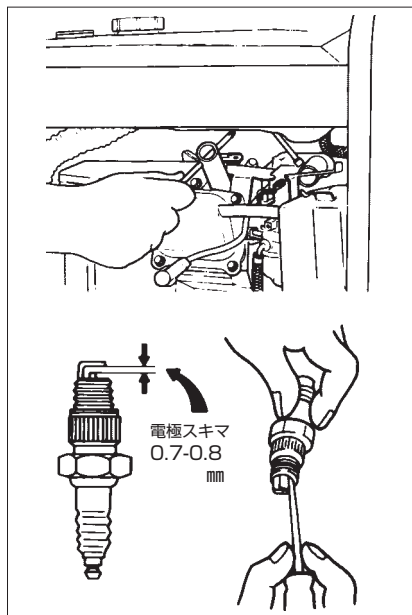
指定スパークプラグ：

MGE2700：LG F7RTC

電極スキマ：0.7～0.8 mm

点検・清掃時期：50 時間運転毎

6. スパークプラグを取り付けます。



要点

- スパークプラグの取り付けはネジ山を壊さないように、指でいっぱい締め込んだ後、プラグレンチを使って確実に締め込んでください。
- エンジン故障の原因となるので指定以外のスパークプラグを使用しないでください。

やさしい点検・整備- 4

●バッテリーの点検 MGE2700-A01/B01

この発電機のバッテリーはVRLA(制御弁式)バッテリーです。バッテリー液の補充、点検は不要です。

バッテリーに異状があるときは、販売店またはサービス店で点検・整備を受けてください。

警告

バッテリーは引火性ガス(水素ガス)を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、けがをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しの良いところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

定期点検と長期保管

●定期点検

発電機の故障と事故を未然に防ぎ、安全にご使用いただくため定期的に点検を実施してください。

▲警告

- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラ周辺などは非常に熱くなっています。やけどをしないようエンジンが冷えてから点検してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきった室内や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はしないでください。

点検項目と時期

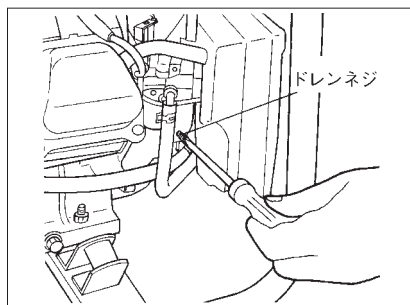
点 検 整 備 項 目		点 検 時 期				
		始業時	初 期 20時間毎	3カ月又は 50時間毎	6カ月又は 100時間毎	1年又は 300時間毎
燃料	漏れ、量の点検	○				
燃料ストレーナー	清掃			○		
	交換					●
燃料パイプ	亀裂、点検					●
エンジンオイル	漏れ、量の点検	○				
	交換		○		○	
エアクリーナエレメント	点検	○				
	清掃			○		
スパークプラグ	点検、清掃				○	
リコイルスタータ	作動、ロープの損傷	○				
スイッチ類、操作パネル電装品	作動、損傷	○				
本体各部の締付部	点検、締付					●
シリンダヘッド	カーボンの除去					●
バルブクリアランス	点検、調整					●

●印の点検、整備は販売店またはサービス店に依頼してください。

●長期保管

長期間運転しない場合、または長期間保管する場合は次の手入れを行なってください。

- 各部をきれいな乾いた布で清掃します。
- エンジンオイルを交換します。
- エアクリーナを清掃します。
- キャブレタ内のガソリンを抜きます。燃料タンク内の燃料を抜きとったあとキャブレタのドレンネジより燃料を排出してください。
- リコイルスタータを引張り、重くなった所で止めておきます。



▲注意

- 長期保管の整備を行う時は、火気厳禁です。火気を近づけないでください。
- 長期保管の整備を行う時は、換気の良い場所で行ってください。
- 抜き取った燃料は、適切な処理をしてください。

定期運転と定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行って緊急時に備えてください。

●定期運転

1 ヶ月に 1 度定期的に発電機を運転（約 10 分）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

●定期交換

燃料（自動車用レギュラーガソリン）を満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため、3 ヶ月に 1 回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

▲ 警告

- 本書での指示なき作業などを行うときにも、必ずエンジンを止めてください。
- お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、販売店またはサービス店へ作業を依頼してください。

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

故障診断

故障の多くは不十分な点検や取り扱いの不慣れに起因しています。
故障が生じた場合は下記により点検し、なお異常のあるときは、できるだけそのままでの状態でお買いあげの販売店にご相談ください。

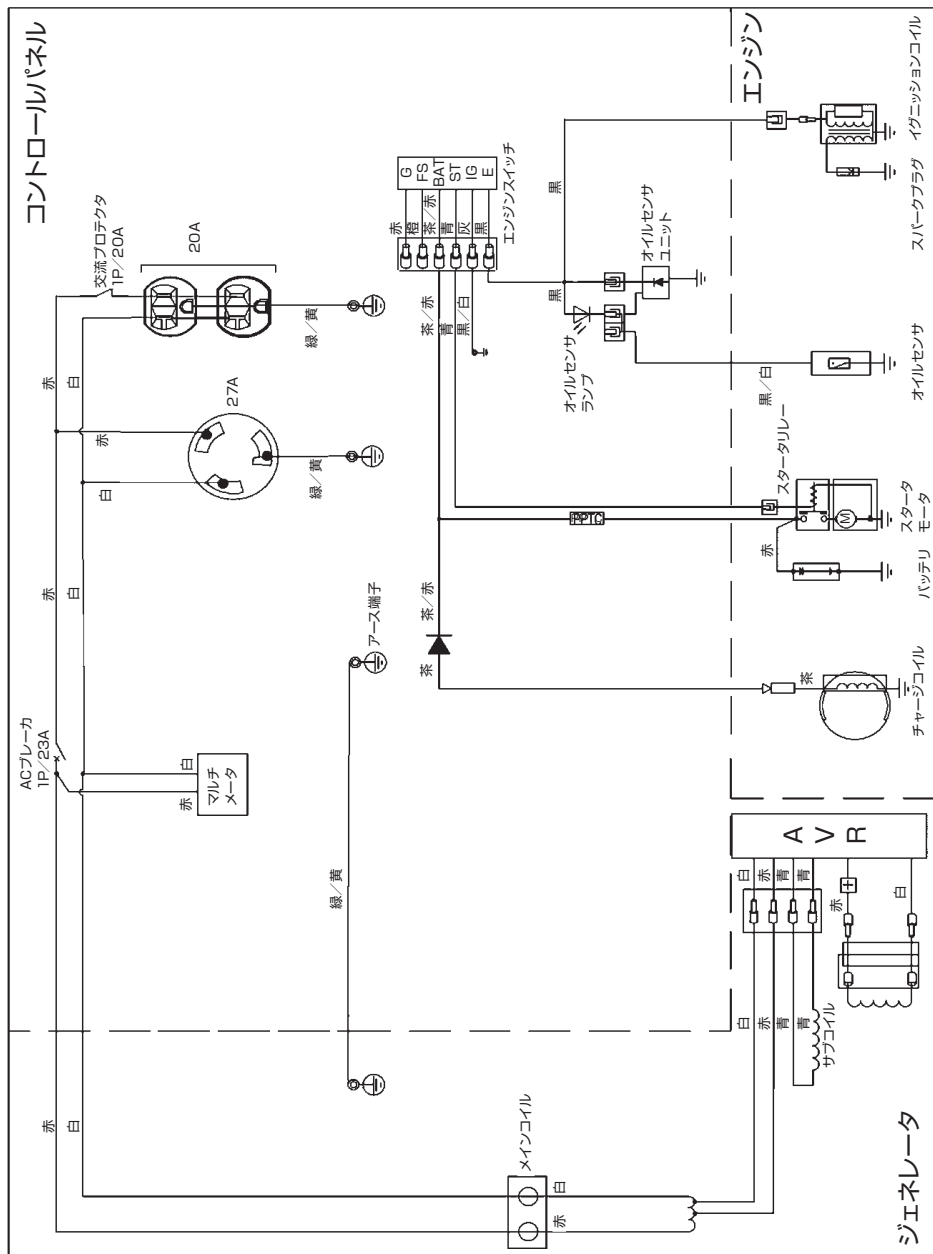
●エンジンが始動しない

原因	対処
<ul style="list-style-type: none">• 燃料が空になっている。• 燃料パイプが目詰りしている。• 燃料ストレーナーが目詰りしている。• キャブレタが目詰りしている。• スパークプラグが汚れている• スパークプラグの電極スキマが正常でない。• エンジンオイルが不足している。	<ul style="list-style-type: none">• 燃料を補給する。• 燃料パイプを清掃する。• 燃料ストレーナーを交換する。• キャブレタを清掃する。• スパークプラグを清掃し乾燥させる。• 電極スキマを正常値に調整する。• エンジンオイルを補給する。

●電気が取出せない

原因	対処
<ul style="list-style-type: none">• 交流プロテクタが OFF (切) になっている。	<ul style="list-style-type: none">• 交流プロテクタを ON (入) にする。
<ul style="list-style-type: none">• 使用電気器具の消費電力が発電機の使用範囲を超えている	<ul style="list-style-type: none">• 使用範囲内の電気器具を使用する。
<ul style="list-style-type: none">• 差し込みプラグとコンセントの接触が不完全。	<ul style="list-style-type: none">• 電気器具の差し込みプラグを確実にコンセントに差し込む。

配線図-2



保証書

この度は弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございました。
万一故障が発生したときは、この保証書が定める条件にしたがってつぎのとおり無償で修理いたします。

■保証の内容

付属の取扱説明書及び製品本体に貼付のラベルに記載の注意事項に従った使用状態において製品が故障した場合、弊社は、この保証書が定める条件にしたがって、工賃・部品代を弊社負担の上、製品を修理いたします(以下、この修理を「保証修理」といいます)。その際、部品交換のために取り外した部品は、返却いたしかねます。なお、この保証書において故障とは、取扱説明書に示す製品仕様を著しく逸脱していると認められる状態をいいます。また、弊社の責任は保証修理に限定されるものとし、保証修理を受けるために要した通信費、交通費、搬送費、及び製品を使用できなかったことによる損失の補償は一切いたしかねます。

■保証期間

保証書登録票記載のご購入年月日から1年間といたします。

■保証修理の対象とならない場合

製品が次のいずれかに該当する場合には、保証修理の対象外とし、修理は有償となります。

- ・取扱説明書に定めるとおりの保管及びお手入れ(定期的な充電を含む)を実施しなかったとき
- ・分解、改造がおこなわれたとき
- ・弊社指定工場以外で修理がおこなわれたとき
- ・取扱説明書及び製品本体に貼付のラベルに示す使用条件以外の環境下で使用されたとき
- ・取扱説明書及び製品本体に貼付のラベルに示す用法が守られなかったとき
- ・地震、台風、水害、落雷等の天災、および火災、塩害、異常電圧等の事故による被害を受けたとき
- ・故意または重過失により故障したとき
- ・保証期間内に発生することが通常予想される経年変化

■保証の効力

この保証書は日本国内においてのみ有効です。また製品を日本国外に持ち出された場合には、その時点でこの保証書は無効となります。また、「保証書登録票」に販売店印のないものは無効です。

■保証修理のお申し込み

購入された販売店に直接保証修理をお申し込みください。その際、この保証書を保証期間内にご呈示いただくことが必要となります。

保証書登録票

お客様	おなまえ(ふりがな) TEL
	おところ 〒 TEL
機種	機体No.
ご購入年月日	保証期限 左記ご購入年月日より1ヶ年
販売店	住所
	店名 TEL

(注) 保証書は再発行いたしかねますので、大切に保管して下さい。

「保証書」にご記入頂いた個人情報の取り扱いについて
弊社製品に添付されている「保証書」にご記入頂いた「個人情報」について以下にしたがって取り扱います。

1. 利用目的

弊社はご記入頂いた「個人情報」を次の目的に使用させていただきます。

- (1)「保証書」記載条件に基づく対象製品の保証修理等の保守サービス
- (2)対象商品に関連したユーザーサポートの提供

2. 利用・提供

弊社は次の場合を除き、お客様のご了承も無く「個人情報」を第三者に開示することはありません。

- (1)上記利用目的のために弊社が業務を委託する事業者に対する開示が必要な場合
- (2)司法機関または行政機関から法的義務を伴う要請を受けた場合
- (3)法令に基づく場合

株式会社 **Willbe**

〒496-0023 愛知県津島市鹿伏町下子宇23番地
TEL 0567-69-7802 FAX 0567-69-7814

発電機の整備、修理のご依頼、部品購入について

保証修理につきましては、保証書の内容をよくお読みいただき保証書を添えて、本機をご購入いただきました販売店にご依頼ください。

整備・部品の購入・有償修理については、下記 URL リンク先に記載のサービス指定工場もご利用いただけます。

サービス指定店への整備、修理のご依頼は、本機の持ち込みを原則としており、有償となることをご了承願います。

サービス指定店：

<https://willbe-corp.com/support/repair/>



・各種ご相談は、最寄の連絡先までお問い合わせください。

【連絡先】	【TEL】	【担当地域】
東京・東海支店	0567-69-7804	北海道・東北・関東・甲信越 東海・北陸
大阪支店	06-6446-4088	近畿
岡山支店	086-296-0215	中国・四国
福岡支店	092-572-5301	九州

株式会社 *Willbe*

〒496-0023 愛知県津島市鹿伏兔町下子守2 3 番地

TEL : 0567-69-7802 FAX : 0567-69-7814

URL : <https://willbe-corp.com/>